

性能水準及び推進方策の素案について

【 既 存 】

性能水準の素案について

背景

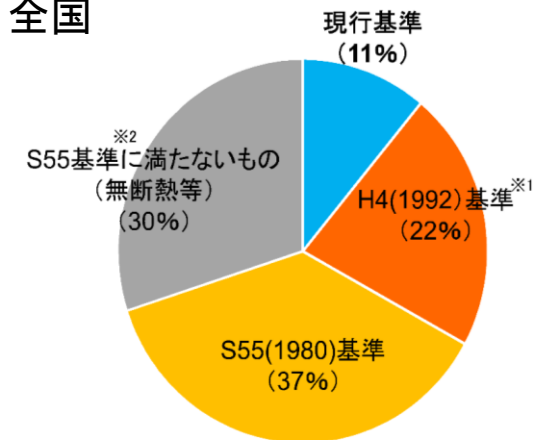
- 全国の住宅ストック（約5,000万戸）のうち省エネ基準に適合している住宅は平成30年度時点で約11%となっており、また、無断熱の住宅は約30%となっている。
- 富山県カーボンニュートラル戦略では、2030年には省エネや断熱性能が向上し、2050年には新築・既存ともに省エネや断熱性能が更に向上し、建物全体でカーボンニュートラルが実現することを目指すとしている。
- 既存住宅の改修については、工事の物理的な制約や費用など、新築時と比べ様々な制約があるほか、家が大きく部屋数が多いという富山県ならではの特徴への対応が必要。

性能水準の考え方

- 新築と同様に3段階の性能水準を設ける。
- 高い性能水準（推奨・チャレンジ）を設けることで、モデルとなる高断熱改修工事の事例を増やし、高断熱改修の認知度を高め普及を図る。また、事業者の技術力の向上を図る。
- 富山の住宅の特徴や高齢世帯の増加などを踏まえて、住宅の全体改修だけではなく、使用頻度の高いゾーン（居間や寝室、風呂、トイレなど）を対象を絞った部分改修の水準も設け、省エネルギー化の底上げを図る。
- 地震に対する安心感や、リセールバリューを高めるためにも、レジリエンス性として一定の耐震性能を確保する。

【住宅ストック（約5,000万戸）の断熱性能】

全国

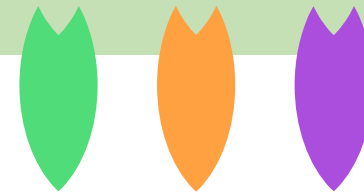


※1: 省エネ法に基づき平成4年に定められた基準
※2: 省エネ法に基づき昭和55年に定められた基準

出典: 統計データ、事業者アンケート等により推計 (H30(2018)年)

性能水準の素案について

安心・心の余裕 心身の健康 思いやり



【チャレンジ】高次元な断熱性能を達成するチャレンジ基準のレベル

- 空き家のフルリノベなど、新築に変わる新たな選択肢として普及を図る
- R6官民連携プロジェクト「ウェルビーイングな家（富山市）」がこのレベル

【推奨】高次元な断熱性能を達成するレベル

- 空き家のフルリノベなど、新築に変わる新たな選択肢として普及を図る

【標準】省エネ性能の向上に向けて最低限確保すべきレベル

- 居間や浴室、トイレ、寝室など、普段よく使用する空間に限定した改修の普及を図る
- 住みながらの改修やコストを抑えた改修が可能となる



R6官民連携プロジェクト
ウェルビーイングな家（富山市）

	要素	省エネ基準	ZEH	富山型ウェルビーイング住宅（仮称）【既存】		
				標準 （部分改修）	推奨 （全体改修）	チャレンジ （全体改修）
基本項目	断熱性能 UA値	0.87	0.6	0.60 <ZEH>	0.48 <HEAT20 G1>	0.34 <HEAT20 G2>
	気密性能 C値	—	—	—	—	1.0cm ² /m ² 以下
	レジリエンス性能			耐震等級1相当	耐震等級2相当	耐震等級3相当